

踏切通行時の一旦停止義務解除が安全性に与える影響

松本真吾 柴田徹

我が国では、道路交通法によって、踏切通行時の一旦停止義務が定められているが、これはヨーロッパやアメリカにおいては実施されておらず、日本・韓国等に特有の規則である。

今回、一旦停止義務が安全性に与える影響を、損害としてのリスクの変動の度合として定量的に評価した。

具体的には踏切出口での先詰まりにおける滞留に注目し、現状については踏切通行車両のビデオ解析、一旦停止解除時はドライビングシミュレータ実験により、先行車が出口で停止した場合に、踏切内で滞留する滞留可能性を評価した。

その結果、一旦停止義務を解除した場合、現状に比べて滞留が約2.5倍増加すると推定される。

(鉄道総研報告, 2008年7月号)

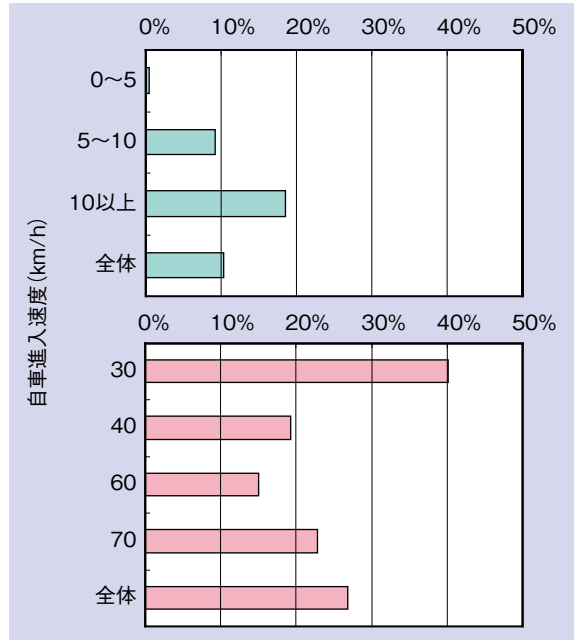


図 先行車停止時の滞留可能性 現状(上)及び一旦停止解除時(下)

在線表示を中心とした旅客向け運行情報の提示方法

藤浪浩平 村越暁子 山内香奈 深澤紀子 土屋隆司 井上貴芳

ダイヤ乱れ時などにおいて、旅客が自分自身の行動を容易に決定できる運行情報を提供することは有益である。そこで、旅客を対象とした集合形式の質問紙調査と駅社員に対するインタ

ビュー調査を実施し、旅客の情報ニーズを把握した。この結果にもとづき、在線表示を中心とする運行情報の提示方法を提案し、大型ディスプレイで旅客向けに情報を提供する場面を想定

して駅社員に評価してもらった。その結果、導入初期段階では、表示内容の読み取り方に関する説明を求められるなどの負担が増える可能性はあるものの、旅客による積極的な活用が見込まれ、長期的に見れば、駅社員の負担は減るだろうという評価が得られた。また、出札窓口の社員が利用することで、新幹線等へ乗り継ぐ人に対して、列車の運行状態を考慮した乗車券類の販売と旅客案内が容易になるという指摘も出され、旅客のみならず駅社員にとっても有効であることが示唆された。

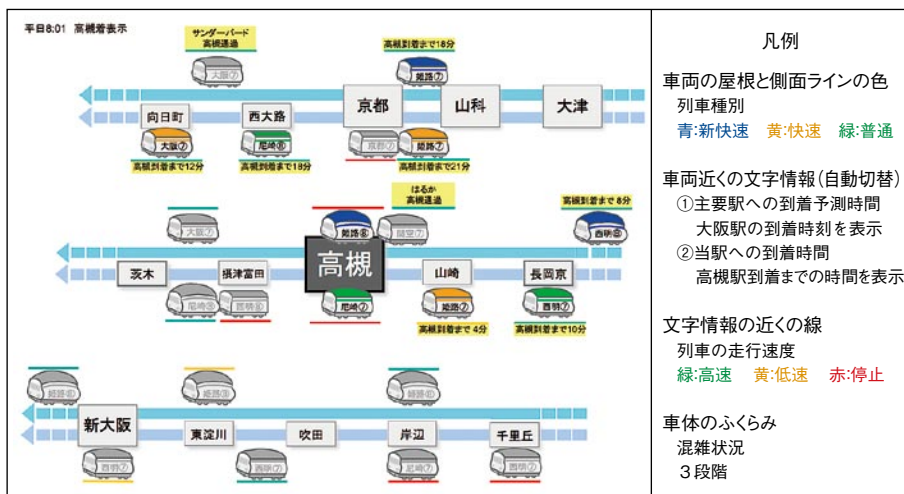


図 在線表示を中心とした旅客向け運行情報提供画面案

(鉄道総研報告, 2008年7月号)